

岩手県内の市町村との連携拡大

岩手県盛岡市と再生可能エネルギーに関する連携協定を締結しました



横浜市は、2050年までの脱炭素化の実現に向けて再生可能エネルギー（以下、「再エネ」という。）の普及拡大に取り組んでおり、これまでに再エネ資源を豊富に有する20自治体と再エネに関する連携協定を締結しています。このたび、その中で最も多くの9自治体が所在する岩手県の県庁所在地・**盛岡市と、新たに連携協定を締結**しました。

本連携協定により、「地域循環共生圏^{※1}」の考え方にに基づき、再エネの普及拡大による脱炭素社会の実現と、両市の地域活力の創出を目指し、相互に連携して取り組んでいきます。

※1：各地域がその特性に応じた地域資源を生かし、自立・分散型の社会を形成しつつ、近隣地域と地域資源を補完し支えあうことで、地域を活性化させるための考え方。第五次環境基本計画（2018年4月閣議決定）にて提唱

1 連携協定について

(1) 概要

横浜市の再エネの創出ポテンシャルは2050年の市内の電力消費量の約10%と試算され、再エネへの転換に向けて、2019年2月からこれまでに再エネ資源を豊富に有する20市町村と再エネに関する連携協定を締結し、市域外からの再エネの活用に取り組んでいます。

岩手県盛岡市は、再エネ資源を豊富に有し、2022年に「もりおかゼロカーボン2050行動宣言」を表明するほか、盛岡広域8市町で「みちのく盛岡広域連携都市圏^{※2}」を構成し、再エネの活用を含めた様々な課題解決に取り組んでいます。このたび、本協定の趣旨にご賛同いただいたことから、再エネに関する連携協定を締結しました。

今後、両市においてそれぞれのポテンシャル・知見を結集し、「再エネの地産地消の確立」「余剰電力の広域活用による収益化」「脱炭素施策の加速」を目指します。盛岡市内の再エネ電源を活用し、本市が公民連携で推進する広域連携再エネ電気メニューでの将来的な供給を検討していきます。また、横浜市庁舎での再エネ連携物産展等を通じ、相互の地域活性化に関しても取り組んでいきます。

連携協定の締結にあたり、盛岡市役所にて行われた協定締結式に、平原 敏英 副市長が出席しました。

※2：盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町及び矢巾町で構成される共同体。2016年1月に国の連携中枢都市圏構想推進要綱に基づく連携協約の締結により、みちのく盛岡広域連携都市圏を形成

裏面あり

GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



■協定締結式の様子（2026年7月7日(火)）



【左】平原横浜市副市長 【右】内館盛岡市長

※写真データをご希望の方は、下記連絡先までご連絡ください。

【連絡先】 脱炭素・GREEN×EXPO 推進局循環型社会推進課

E-mail : da-saiene@city.yokohama.lg.jp Fax : 045-550-3925 Tel : 045-671-4155

(参考) これまでに連携協定を締結している市町村

- ・青森県横浜町
- ・岩手県久慈市、二戸市、葛巻町、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町
- ・秋田県八峰町、大潟村、湯沢市
- ・福島県会津若松市、郡山市、いわき市、浪江町
- ・茨城県神栖市
- ・栃木県那須塩原市
- ・大分県日出町

(2) 連携内容

盛岡市及び横浜市は、脱炭素社会の実現を目指しながら、再エネの活用を通じた地域活性化の取組を推進するため、以下の事項について、相互に連携をして取り組んでいきます。

- ・再生可能エネルギーの創出・導入・利用拡大に関すること
- ・脱炭素化の推進を通じた住民・地域企業主体の相互の地域活力の創出に関すること
- ・再生可能エネルギー及び地域循環共生圏の構築に係る国等への政策提言に関すること

次頁あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



2 盛岡市について

(1) 概要

人口：276,152人 世帯数：133,363 (2026年5月末時点)

面積：886.47k㎡

盛岡市は、およそ400年前に南部氏が北上川と中津川が合流した現在の中心市街地に居城を築き、市街地・産業・暮らし・文化の基礎が作られ、江戸期を通じて城下町として発展しました。1889年(明治22年)に市制を施行し、県都としての歩みを始めました。岩手山、姫神山などの山並みを背に、市内にはいくつもの川が流れ、市街地は田園地域や丘陵地に囲まれるなど、豊かな自然や優れた景観を有しています。



こうした自然環境と都市機能の調和の下に、偉人や先人がはぐくんできた歴史や文化、美しい街並み、温かい人情など、盛岡市は様々な魅力を備えています。2023年1月のニューヨーク・タイムズ紙においては、市街地の歩きやすさ、歴史的建造物、景観、食文化などが評価されました。

盛岡では、古くから米や馬の特産地として栄え、多くの伝統行事や民俗芸能が継承されています。あでやかな飾り付けとたくさんの鈴をつけた70頭ほどの馬が行進するチャグチャグ馬コ。藩政時代から受け継がれ、その起源は「三ツ石伝説」に由来し、迫力満点の太鼓と軽やかな笛の音に合わせ舞い踊る盛岡さんさ踊りは、盛岡の夏の風物詩です。絢爛豪華な山車とお囃子の行列が大八車の音をきまして市内を練り歩く盛岡秋まつり・山車は300年の伝統を誇ります。

また、「わんこそば・盛岡冷麺・盛岡じゃじゃ麺」の“盛岡三大麺”をはじめ、冷涼な気候と豊富な水資源に支えられた、質の高い食材と郷土料理が魅力で、伝統の味と新しい食文化が共存し、訪れる人を飽きさせない食の魅力が凝縮されています。



【盛岡さんさ踊り】



【わんこそば】



【盛岡冷麺】



【盛岡じゃじゃ麺】

(2) 再エネについて

盛岡市は、豊かな自然環境と気候条件を活かし、再生可能エネルギーの活用が高いポテンシャルを有する地域です。特に太陽光発電、周辺の地形や風況を踏まえた風力発電など、多様なエネルギーの導入が期待されています。これらの地域資源を活かした取り組みは、持続可能なまちづくりと脱炭素社会の実現に向けた重要な基盤となっています。

市内には、こうした再生可能エネルギーを体験・学習できる「もりおかエネルギーパーク」が整備されており、経済産業省から「次世代エネルギーパーク」の認定を受けています。



【四十四田発電所 (四十四田ダム)】

裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



例えば、風力発電では姫神山周辺に立地する「姫神ウィンドパーク」、太陽光発電では「ソーラーガーデン姫神」や盛岡市卸売市場のメガソーラーなどの導入が進められています。さらに、水力やバイオマスなどでは、「四十四田発電所」「御所発電所」といった施設や、地域の森林資源を活用した木質バイオマスの取り組みが進められています。



【姫神ウィンドパーク】

このように盛岡市は、既存の再生可能エネルギー施設の蓄積と、太陽光・風力・バイオマスといった多様なエネルギー資源のポテンシャルを兼ね備えた地域として、二酸化炭素排出の削減に寄与するほか、再生可能エネルギーの啓発等でエネルギー問題への理解の増進を図るとともに、「水と緑のまち・もりおか」の良好な環境の継承に寄与することを目指しています。

お問合せ先
循環型社会推進課長 松下 Tel 045-671-2636



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

